

学校教育における施策の推進状況及び今後の課題

教育委員会 教育課

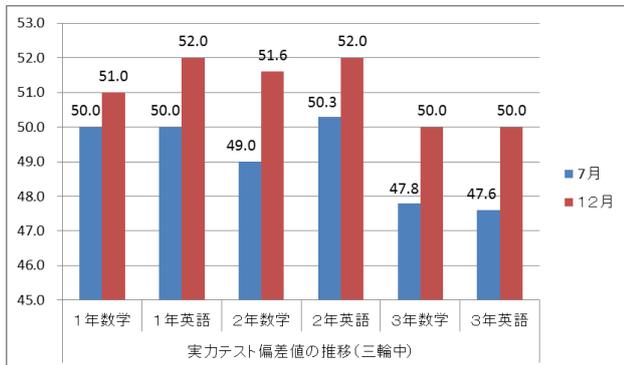
1 中学校アフタースクールの検証

(1) 各中学校の参加生徒数について

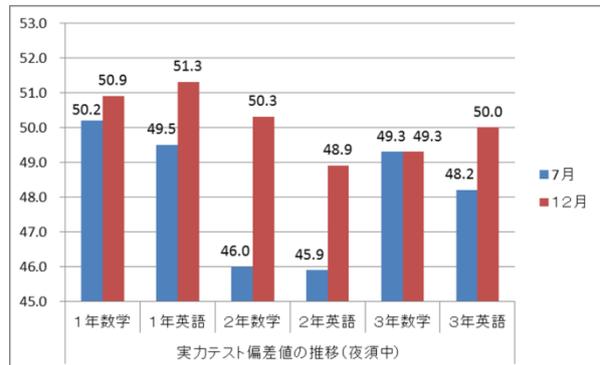
	H30		R1	
	三輪中	夜須中	三輪中	夜須中
1学年	21	40	40	27
2学年	22	20	21	31
3学年	14	38	11	20
各学校計	57	98	72	78
年度計	155		150	

平成30年度と令和元年度を比較したとき、各月によって入会や退会等で若干の変動があるが、合計150名程度がアフタースクールへ参加している。全生徒数の約20%が参加していることになる。そして昨年度の1、2年生で今年度も参加している生徒は、約46%（2、3年生のみ）であり、半分近くの生徒が昨年度からの参加者である。

(2) 学力向上について



H30平均偏差値（7月・2月）三輪中学校



H30平均偏差値（7月・2月）夜須中学校

昨年度アフタースクールの平均偏差値（7月と2月）の推移を見てみると両中学校とも数、英において上昇がみられる。

H31	中学校			
		平均正答数/出題数	平均正答率(%)	標準化得点
数学	筑前町	9.8/16	61.0	102.1
	福岡県(公立)	9.5/16	59.0	99.0
	全国(公立)	9.6/16	59.8	100.0
英語	筑前町	11.8/21	56.0	100.0
	福岡県(公立)	11.4/21	54.0	96.6
	全国(公立)	11.8/21	56.0	100.0

H31全国学力・学習状況調査結果

今年度の全国学力・学習状況調査結果を見たとき、数学、英語ともに全国平均及び県平均を上回っている。

中学校の先生方の授業力向上が大きく関係していることだと考えられるが、数学、英語ともにアフタースクールで学習している教科であることから成績の上昇へ関係していると考えられる。

(3) 生徒アンケートについて

- ・わからないところをどんどん聞いた。
- ・勉強がわかるようになり、成績が上がった
- ・英語が全くわからなかったけど、わかるようになった。
- ・苦手な教科が好きになった。苦手から得意になった
- ・学校の授業がわかるようになった
- ・社会や理科も教えてほしい
- ・もっと静かに学習したい
- ・ルールを守っていない人をもっと注意してほしい
- ・もっと人数を減らすか3クラスが良い

(4) 成果と課題

- 半分近くの生徒が昨年度からの参加者であることを考えるとおおむね満足している生徒が多いと考えられる。
- 今年度の全国学力学習状況調査や生徒アンケートからアフタースクールの学びが成績の伸びに関係していると考えられる。
- 成績の伸びと直接的な関係はないが、「勉強の仕方がわかった」や「苦手な教科が好きになった」等、学ぶ意欲が高まった生徒もいた。
- 今年度は、5月から自習、6月から授業開始とした。特に自習においては、2時間、とても集中して学習できた。生徒たちに1日の振り返りを書かせたとき、「こんなに時間がたつのが早いとは知らなかった」等、学習に対する意欲の高まりを感じた。
- 学年によっては、人数が減っていった学年があり、内容面、方法面について今後、協議していく必要がある。
- 講師の先生は、週に2回の1時間程度しか生徒と関わる機会がないため生徒指導を求めるのが困難である。そのため約束事を守らせることが難しい。
- アフタースクールの運営において、参加費や教材費の未納、約束事が守れない生徒、講師の先生と生徒の関係がうまくいかないとき 等の対応。
- 地域学校協働活動推進員や講師の先生の確保が難しい。
- 今後の運営形態の検討が必要。

2 三並小学校の児童数減少対策について

(1) 三並小学校児童数の推移（特別支援学級の児童は当該学年の児童数に含む）

各年度の入学予定者数については令和元年5月1日現在

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1年生	12	9	11	15	14	6	11
2年生	13(2)	12	9	11	15	14	6
3年生	9(1)	13	12	9	11	15	14
4年生	13(1)	9	13	12	9	11	15
5年生	7	13	9	13	12	9	11
6年生	12(2)	7	13	9	13	12	9
合計	66	63	67	69	74	67	66

(2) 小規模校のメリット

- ・一人一人の状況に応じた、きめ細かな指導を受けることができる
- ・意見や感想等を発表する機会が多い
- ・活動等において、リーダーを務める機会が多い
- ・特別教室等の利用がしやすい
- ・教材・教具等の整備が行いやすい
- ・異学年での学習活動を実施しやすい
- ・体験活動や校外学習等を行いやすい

等

(3) 小規模校のデメリット

- ・社会性を涵養する機会や多様な考え、意見に触れる機会が少ない
- ・切磋琢磨する環境が作りにくい
- ・教職員数が少ないため、校務分掌での一人に係る負担が大きい
- ・PTA活動等における、一人に係る負担が大きい

等

(4) 児童数減少への対策について

【通学区域の弾力化（特認校）】

(実施状況)

- ・近隣の市町においても実施されている（小郡市、うきは市、久留米市、福津市 等）
- ・児童生徒の募集範囲は、同じ市町に限定している
- ・在籍期間は、原則、卒業までとしている
- ・通学は保護者の責任で行う
(久留米市は公共の交通機関とタクシーでの通学とし、交通費は久留米市が負担している)
- ・毎年、数名の応募がある

(成果) ※ 利：利用者、学：学校、地：地域

- ・きめ細やかな指導により、大規模校で感じていた困難さを解消することができた。(利)
- ・児童生徒の増加により、多様な感じ方・考え方に触れる機会が増えた。(学)
- ・固定しがちな人間関係に変化がみられる。(学)

(課題)

- ・児童生徒の増加が学級の児童生徒数の増加に直結する（増加による学級数の増加等がない）ため、担任の負担感が増える。
 - ・利用者の保護者に「地域」という意識が薄いため、地域行事やPTA行事等への参加が積極的には行われず、トラブルになる。
- ※ 特認校制度に係る指導及び事務処理等を担当する職員を配備することで、上記の課題に対応できると考える。